

令和3年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標

① 人権教育の充実

- ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切にする心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する
エ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する

② 学習指導の充実（徳島県 GIGA スクール構想の推進）

- ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る ウ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る
エ 個別最適な学習、協働的な学習を推進する

③ 進路指導の充実

- ア 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる イ 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④ 生徒指導の充実

- ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る イ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える
ウ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤ 特別活動の推進

- ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を充実させる
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥ 健康教育の推進

- ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る イ 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る
ウ 教育相談活動の一層の充実を図る

⑦ 環境教育・安全教育の推進

- ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧ 主権者教育・消費者教育の推進

- ア 政治や選挙への関心を高め、有権者として必要な政治的素養の育成を図る
イ 消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する ウ 持続可能な社会の実現に寄与する消費生活を実践できる能力を育成する

⑨ 読書活動の推進

- ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

⑩ グローバル人材の育成

- ア 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

⑪ 開かれた学校づくりの推進

- ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する ウ 地域社会、PTA、同窓会との連携を図る

⑫ 教職員の資質向上

- ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

1 人権教育の充実

教育目標	評価指標（活動計画）		評価			次年度への課題と 今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
①人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する。 ②自他を大切にする心や態度を育成する。 ③家庭への啓発活動を推進する。	① 人権尊重の精神が息づく学校の雰囲気できていると生徒が回答した割合 80%以上 ② 充実した人権ホームルーム活動ができた回答した生徒の割合 80%以上 ③ 生徒に人権意識向上のための指導が適切だと回答した保護者の割合 90%以上	① 生徒 97.0% ② 生徒 92.6% ③ 保護者 87.5%	A A B	(評定) A	「人権尊重の精神が息づく学校の雰囲気づくり」「人権ホームルーム活動」とともに、今後ともさらに充実したものにしていきたい。評価指標③の生徒の「人権意識向上のための指導が適切か」という保護者の評価が目標未達であった。コロナ禍のため、保護者啓発が十分におこなわれず、保護者が判断できなかった部分もあると思われる。来年度は保護者啓発を充実させたい。	
	① ・「人権週間」年3回以上実施する。 ・「人権講演会」など年1回以上実施する。 ・「校内意見発表会」年1回以上実施する。 ・その他、適切な啓発行事を実施する。 ② ・「人権問題ホームルーム活動」年4回（3年は3回）実施する。 ・「人権職員研修会」年3回実施する。 ③ ・「人権新聞」年3回以上保護者に送付する。	① ・「人権週間」年3回実施。 ・「人権講演会」年2回実施。 ・「校内意見発表会」年1回実施。 ② ・「人権問題ホームルーム活動」年4回（3年は3回）実施。 ・「人権職員研修会」（全体）年3回実施。 ③ ・「人権新聞」年7回発行。生徒を通じて保護者閲覧。（以上予定を含む）	(所見) 県教育委員会の指定研究の効果もあり、①②ともに予想より高い達成率を実現することができた。活動計画の行事などは、コロナ禍にもかかわらず計画に沿って実施でき、充実したものになった。③は未回答を入れて集計した数値で未達。	学校関係者の意見 県を担う人材育成のためにも人権教育は必須であるため、指定研究終了後も取組を引き継いでいただきたい。コロナ禍のため、家庭啓発活動に課題が残っているようなので、次年度の取組に期待したい。		

2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と 今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価		
①主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。 ②学習指導要領の改定の趣旨を踏まえた教育課程を編成する。	① 生徒の学習時間（1日あたり）3時間を超える生徒の割合 70%以上 ② 令和4年度の教育課程を編成する。	① 生徒 58.8% ② 新学習指導要領の趣旨を踏まえた令和4年度入学生用新教育課程を編成した。	C B	(評定) B	生徒の学習時間については、3時間を超える生徒の割合が昨年度より13.5%下がった。これは、調査方法を紙媒体から学習支援クラウドサービスに変更したことによる未入力者の存在が影響していると思われる。今後は、入力を徹底させることで、調査結果の正確性を図る必要がある。 令和4年度より新教育課程となるため、本年度編成した新しい教育課程が適性に実施できているかについて確認していく必要がある。	
	① ・家庭学習時間調査を学習支援クラウドサービスを活用し、毎日実施する。 ・月ごとに学習計画を立てるように習慣づける。 ・生徒1人1台タブレット端末を活用した授業支援・学習支援クラウドサービスの有効利用を推進し、主体的に学ぶ力を身につかせる。 ② 新学習指導要領の改訂方針について研究し、令和4年度入学生の教育課程を編成する。	① ・家庭学習時間調査を毎日実施した。 ・新型コロナウイルス感染症対策による休校中や分散登校中に、学習支援クラウドサービスにより、授業配信・課題の送付などを実施した。休校・分散登校前後も、一部教科では、課題の配信等で積極的に活用した。 ② 新学習指導要領について、教育課程検討委員会や各教科会で検討を重ね、新学習指導要領の趣旨に沿った令和4年度入学生教育課程を編成した。	(所見) 生徒の学習時間については目標を下回った。調査方法を学習支援クラウドサービスに変更したが、担任は毎日コメントを書いて生徒に返し、コミュニケーションをとる有効な手段となっている。 新教育課程となる令和4年度を見据え教育課程を編成した。今後は大学入学共通テストの動向等に留意していきたい。	学校関係者の意見 クラウドサービスによる学習時間の「見える化」と併せて、先生と生徒のコミュニケーションの時間も大切にしていきたい。引き続き、主体的・協働的な学びができるような学習指導をお願いしたい。		

3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる。 ② 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる。	① 総合的な探究の時間『クエスト』の有用度 80%以上 ② 東京大、京都大 合格者数 10名以上 ・医学部医学科 合格者数 10名以上 ・難関10大学 合格者数 40名以上 ・校外模試偏差値70以上 40名以上 偏差値60以上 130名以上	① 生徒 76.5% 保護者 85.5% ② 東京大、京都大 6名 ・医学部医学科 12名 (既卒4名) ・難関10大学 39名 (R4.3/22現在) ・偏差値70以上 1年 48名 2年 33名 偏差値60以上 1年148名 2年129名 (10/31実施進研模試3教科)	B A	(評定) A	『クエスト』の取組を通して、生徒一人一人のキャリア教育の充実を図る必要がある。コロナ下ではあるが、リモート等による企業研修や国際交流を継続し、課題研究や校外の研修、資格・検定の取得に積極的に参加することで、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の育成につなげていきたい。 校外模試の成績上位者が増加しているので、難関大学志望者の増加も考えられる。その上で必要な方策（OB・OGによる説明会等）と実施時期を考える必要がある。
	① 外部講師を招いた総合的な探究の時間『クエスト』を1、2学年で2回以上実施する。 ② 徳島大学等の体験授業や物理チャレンジなど各種コンテストへの参加を推奨する。 ・東京大学金曜講座の生徒への周知を行い、参加を推奨する。 ・進路検討会を第3学年で年4回実施する。 ・難関大希望者対象模試を各学年2回以上実施する。 ・模試分析会を第1、2学年で3回実施する。 ・学力テストの講評を全学年で延べ11回配布する。	① 1、2学年で外部講師を招いて総合的な探究の時間を5回実施。 ② 徳島大学体験授業1名、数学オリンピック予選12名、科学の甲子園3チーム(18名)鳥居龍蔵記念徳島歴史文化フォーラム3名等に参加。 ・東京大学教養学部金曜講座10回(延べ21人)参加。 ・進路検討会を3年で4回実施。 ・難関大希望者対象模試各学年で3回実施。 ・模試分析会を各学年で3回実施。 ・学力テストの講評を全学年で延べ11回配布。	(所見) ある一定数以上の生徒は『クエスト』に達成感を持っていることがわかる。また、校外模試の成績については、全県一区となった1年で伸長している。各種コンテスト等に参加する生徒は増えてきているが、一部の生徒にとどまっている。進路検討会、難関大希望者対象模試、模試分析会、学力テストの講評については、計画通り実施する事ができた。	学校関係者の意見 難関大への合格者数が増加しており、先生方の働きかけやクエストでの学びの楽しさによって、日々の生活が充実していると感じる。これからの社会に必要な生きる力を養うため、主体性を持って多様な仲間と協働して学ぶ態度を養い、志望する進路に進めるような指導と助言をお願いしたい。	

4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る。 ② 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える。	①-1 服装・頭髪が守れている割合 95%以上 ①-2 挨拶が身につけている割合 85%以上 ①-3 ルール・マナーを守っている割合 90%以上 ② いじめを未然に防止するための積極的な取り組み (面接・アンケート 3回)	①-1 生徒 92.1% ①-2 生徒 83.0% ①-3 生徒 90.8% ② アンケート2回(12月・3月)	B B A B	(評定) B	生活委員による駐輪マナーアップ・挨拶運動等の継続。朝夕の挨拶だけでなく、休み時間等の挨拶も自然に行えるよう、教員からも働きかける。 警察と連携しての交通マナーアップ運動も新型コロナウイルス感染症の状況を見て行う。 携帯電話・スマートフォン利用・薬物乱用防止教室・交通安全教室等の講演会も継続して行いたい。
	①-1 各学年での服装・頭髪指導を充実させる。	①-1 各クラスで担任・副担任で行っ	(所見) 服装・頭髪についての達成度は、生徒のみ95%に	学校関係者の意見 生徒への細やかな対応ができており、	

	<p>(年3回)</p> <p>①-2 生活委員による挨拶運動、駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ1回実施する。</p> <p>①-3 交通マナーアップ運動、携帯電話・スマートフォン講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、全校生徒に社会のルールを守ることやマナー指導を行う。</p> <p>② クラス分析会を定期的に行い、生徒の状況等について情報交換を行う。アンケートを活用し、生徒の状況把握をする。重要な対策等が必要なときは、いじめ防止等対策委員会を開き協議を行う。</p>	<p>た。(年2回)</p> <p>①-2 各学期に生活委員が駐輪場のマナーアップ運動を行った。</p> <p>①-3 薬物乱用防止教室(7月)、携帯電話・スマートフォンの利用について(11月)の講演会を行った。</p> <p>② 学年毎にクラス分析会を行い、生徒の情報共有が行われた。いじめ防止対策委員会は、該当する案件がなかった。</p>	<p>達成しなかったが、全体を見ても大きく違反している生徒は見られなかった。</p> <p>挨拶については、生徒・職員ともに目標に達しなかった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、警察と連携してのマナーアップ運動はできなかった。</p> <p>携帯電話・スマートフォンの利用については、生活の改善が見られた。</p> <p>学校生活についてのアンケートを、12月・3月に行った。面接週間等を利用して担任とのコミュニケーションがとれるようにした。</p>	<p>よりよい取組が続いているが、今後ますます個性の伸長を図っていただきたい。交通事故の減少は評価すべき点であり、挨拶も協働という点において重要であるため、引き続き指導をお願いしたい。</p>
--	---	---	--	--

5 特別活動の推進

重点目標	評価指標 (と活動計画)	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
<p>① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する。</p> <p>② 部活動を充実させる。</p>	<p>① 生徒会活動が活発である割合 90%以上</p> <p>② 部活動の充実度 80%以上</p>	<p>① 生徒 88.1%</p> <p>② 生徒 81.3%</p>	<p>B</p> <p>A</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p>	<p>継続して感染対策に細心の注意を払いながら、球技大会、城東祭、予餞会等での生徒会活動や朝の挨拶運動、部活動をさらに充実させていきたい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>① ・生徒会活動や学校行事への積極的参加を促す。 ・朝の挨拶運動を始め、生徒会による学校の活性化を図る。</p> <p>② ・部活動と学習面との両立を図る。 ・短時間で効率のよい活動を心がけ、各々の目標の達成を目指す。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① ・生徒会が主体的に生徒総会や球技大会、各壮行会等の運営を行った。(城東祭は中止となった) ・朝の挨拶運動、予餞会ビデオの作製を生徒会で行った。</p> <p>② ・8時完全下校の遵守、定期考査期間の部活動自粛等メリハリの効いた活動を心がけた。</p>	<p>(所見)</p> <p>コロナ禍の影響により城東祭、予餞会が中止となったが、感染対策に細心の注意を払って可能な限りの生徒会諸活動を行った。</p> <p>部活動の充実度を向上させる為にも短時間集中型の練習を行い、学習時間を充分確保できるよう努めた。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>コロナ禍でありながら、部活動が良い成果を残していることはすばらしい。学校行事が制限されたり、中止となったりして、生徒が主体的に取組むことができなかった点については、今後も工夫を重ねていただき、新たな取組に期待したい。</p>	

6 健康教育の推進

重点目標	評価指標 (と活動計画)	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
<p>① 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る。</p> <p>② 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。</p>	<p>① ・「保健だより」の発行回数 12回以上</p> <p>・保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 80%以上</p> <p>② ・特別支援教育に関する職員研修会に対するアンケートの満足度 90%以上</p> <p>③ ・親身になって生徒の悩みや相談に応じてく</p>	<p>① ・14回</p> <p>・生徒 90.7%</p> <p>② ・教職員 97.7%</p> <p>③ ・生徒 90.7%</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>「保健だより」や保健委員の活動をとおして、生徒の健康に対する意識を向上させる取組を継続していきたい。</p> <p>コロナ禍や学びに対する圧力など、様々な要因で心身に負担を感じている生徒に寄り添い支援できるよう、スク</p>

③教育相談活動の一層の充実を図る。	れる割合	85%以上			ールカウンセラーと連携した教育相談を充実させていきたい。	
	活動計画	<p>① ・保健委員会での生徒の自主的活動を推進する。 ・文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。 ・各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。 ・「保健だより」を12回以上発行し、健康増進について興味・関心を深める。</p> <p>② ・特別支援教育に関する職員研修会を1学期、2学期にそれぞれ1回実施する。 ・各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的に行い、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、支援を行う。</p> <p>③ ・カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動を充実する。</p>	活動計画の実施状況	<p>① ・保健委員は、手洗い石けん液やアルコール消毒液の点検・補充、車いすやAEDの点検、生理用品の配置・補充など行った。 ・文化祭は開催されず、養護教諭が作成した掲示物を案内した。 ・「保健だより」は新型コロナ特別号を含めて14回発行した。</p> <p>② ・校内研修会を1学期に1回実施した。 ・学年会での情報交換に加えて保健室やスクールカウンセラーとの連携により、生徒への早期の対応支援を行った。</p> <p>③ ・教育相談の利用状況は、開設日が30日で、延べ利用数が1年：20回、2年：25回、3年18回である。</p>	(所見)	保健委員は当番制で定期的に活動し、決められた仕事を責任を持ってこなすことができた。 新型コロナの影響で文化祭が開催されなかったため、生徒自らが健康課題を見出し、解決に向かうような取り組みができなかった。 スクールカウンセラーに定期的に教育相談を行っていただき、専門的な支援を必要とする生徒や保護者に支援できた。担任との連携で、早期の対応ができたケースもある。 教員の校内研修ではコロナ禍における生徒の心理的な影響を取り上げていただいた。生徒の実態に応じた内容であり、高い満足度を得ることができた。
					学校関係者の意見	コロナ禍で保健室の様々な機能が必要とされ、ご苦労が多かったことと思われる。先生方をはじめスクールカウンセラーと生徒とのコミュニケーションを大切にしながら、引き続き細やかな指導をお願いしたい。

7 環境教育・安全教育の推進

教育目標	評価指標（と活動計画）		評価		次年度への課題と今後の改善方策	
	評価指標		評価指標による達成度	評定		総合評価
<p>①環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る。</p> <p>②防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する。</p>	<p>① 換気や環境美化活動に積極的に取り組んでいる割合 80%以上</p> <p>②-1 防災訓練の実施回数 2回</p> <p>②-2 心肺蘇生法の技術を習得する</p>		<p>① 生徒 89.2%</p> <p>②-1 7月に火災を想定した訓練、11月に地震津波停電を想定した訓練を実施</p> <p>②-2 生徒を対象にした講習会を6月に実施教職員を対象にした講習会を7月に実施</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	B	<p>アンケート結果では「環境美化」「清掃活動」ともに9割前後が取組に達成感を持っている。引き続き清掃への意識向上に取り組むたい。</p> <p>今年も各地で異常気象による災害が起きた。地震だけでなく河川の氾濫や豪雨災害への対策などあらゆる防災への備えを、できることから地道に行っていく必要がある。</p> <p>防災クラブは、コロナ禍で活動を制限されることが多かったが、校内防災研修に参加したり、防災士取得試験を受験したりして、継続した活動を行った。</p> <p>今後も時間や機会を確保し、活動していきたい。</p>
	活動計画	<p>① 換気や節電・節水を呼びかけ、定期的に環境委員による校内美化活動を実施する。</p>	活動計画の実施状況	<p>① 環境委員が各クラスで節電・節水を呼びかけた。環境問題に関する新聞記事等を掲示した。</p>	(所見)	学校関係者の意見

<p>②-1 防災訓練の実施においては、避難経路及び関係教員の役割の確認を行う。</p> <p>②-2 教員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ1回以上実施する。</p>	<p>②-1 避難訓練を1回、初動対応訓練を1回行った。火災はコロナの影響で講演会に変更した。</p> <p>②-2 職員対象に1回実施した。生徒対象に1回実施した。</p>	<p>続き清掃への意識向上に取り組みたい</p> <p>避難訓練は基本的避難行動の再確認として行った。地震津波停電訓練は生じた課題点を今後の活動に生かしていきたい。</p> <p>防災クラブは、生徒対象防災研修の主催、避難訓練の準備や補助など地道な活動を行った。また高校生防災クラブ交流イベントへの参加や、防災士の資格取得にも積極的に挑戦して成果を上げた。</p>	<p>らしい。地域の美化活動に努められており、とても気持ちの良い学校という印象である。身の美化を身につけることは、個人生活の充実にもつながるものと期待する。</p>
--	---	--	--

8 主権者教育・消費者教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
<p>①政治や選挙への関心を高め、有権者として必要な政治的素養の育成を図る。</p> <p>②消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する。</p> <p>③持続可能な社会の実現に寄与する消費生活を実践できる能力を育成する。</p>	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	<p>1年生の興味関心が61.9%と低いので、既存の取り組みを更に充実させたい。</p> <p>1学年で学んだ消費者保護等に関する知識を3学年になると忘れていくことがある。3年間を通じて啓発の機会を設ける等、さらに学習の機会を設け充実させていきたい。</p>
	<p>①-1 政治や選挙に関心の高い生徒の割合 70%以上</p> <p>①-2 新聞を読む習慣のない生徒 30%以下</p> <p>② 「契約トラブルと消費者保護制度について理解できた」と回答した生徒の割合 80%以上</p> <p>③ 「持続可能な社会のあり方について考え、実際に行動に移すことができた」と回答した生徒の割合 80%以上</p>	<p>①-1 公民履修者を対象にした調査では学習内容に興味関心のある生徒は全体で72.0%で、特に3年生では82.2%であった。</p> <p>①-2 3年生政治経済選択者を対象にした調査では、新聞を読む習慣のない生徒は、28.2%だった。</p> <p>② 契約トラブル等の消費者保護制度について「理解できた」と回答したのは1年生で91.6%。</p> <p>③ 「行動を起こすことができた」と回答したのは1年生で81.7%。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p>	
	活動計画	活動計画の実施状況	<p>(所見)</p> <p>新聞を使った発表を通じて新聞を読む習慣のない生徒の66%に読む習慣をつけることができ、昨年の衆議院選挙においても積極的な投票行動が見受けられた。成年年齢の引き下げを見据え、契約の重要性等について主体的に学習を行った。エシカル消費についてはSDGsの取組について学び、実践できることについて考えることができた。</p>		学校関係者の意見
	<p>①-1 公民科の授業をとおして、選挙制度について十分に理解を深め、主権者としてなすべき課題を見つけさせる。</p> <p>①-2 新聞発表をとおして、社会に関心をもち、自らの意見を他者に伝える力をつける</p> <p>② タブレット端末、「社会への扉」等を使用し、「消費者の権利と責任」を自覚して行動できるよう、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解する。</p> <p>③ 「エシカル消費」について学習し、持続可能な社会の実現のための実践力を身につける。</p>	<p>① 「現代社会」の授業で総務省等より配布された全国共通教材等を使用し主権者としてあるべき姿を考えさせた。また、「現代社会」「政治経済」の授業で受講者全員に新聞を使った発表をさせ、社会問題への関心を高めた。</p> <p>② 「社会への扉」を教材にタブレット端末で調べ学習を行った。また、2学年では外部から講師を招いて講演会を行った。</p> <p>③ 映像教材を用いて世界の実情を知り、エシカル消費の必要性や様々な取組の実例について学習した。</p>			<p>4月から成年年齢が引き下げられるため、更なる取組を期待したい。特に卒業前等に、副教材等でのフォローができるとういのではないかとと思われる。新聞を読む週間がない生徒の多さに驚いた。工夫を凝らした授業により、新聞を読む生徒が増えたことは、すばらしい。</p>

9 読書活動の推進

具体的目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る。	評価指標 ①-1 読書活動に学校として積極的に取り組んでいる割合 70%以上 ①-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数(2021.1~2021.12) 5.5冊以上	評価指標による達成度 ①-1 生徒 73.3% 保護者 81.6% 教職員 93.2% ①-2 7.5冊	A A	(評定) A	生徒の視野が広がるよう「ライブラリーニュース」で多様なジャンルの本を紹介し、ホームページで広報することができた。一方、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、従来の読書会の開催形態の見直しが必要となっている。ICTを効果的に使い、校内の安全を図るだけでなく、校外との交流なども視野にあり方を検討したい。
	活動計画 ①-1 ・読書週間やビブリオバトルを1・2学期に実施する。 ・学校ホームページに図書館情報を掲載する。 ・「ライブラリーニュース」を毎月発行する。 ①-2 読書会を1・2学期に実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 1学期にビブリオバトル(6/1), 1・2学期に読書週間(4/20~23, 10/18~22)を実施した。ライブラリーニュースを毎月発行し、図書関係の行事とともに学校ホームページに掲載した。 ①-2 哲学カフェを計画していたが、感染症対策のため中止した。	(所見) 読書活動に関するアンケートは、生徒の数値が5ポイント上がり、目標を達成できた。1人あたりの貸出冊数は目標を2冊超えた。読書会や読書週間など行事として定着し、教科学習の中でも図書館の利用が進められている。		
学校関係者の意見					
読書は豊かな人生につながるものであり、ビブリオバトルなど様々な工夫が凝らされている。今後も本を読む経験をしっかりさせていただきたい。					

10 グローバル人材の育成

教育目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る。	評価指標 ① ・国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる割合 80%以上 ・テレビ会議を通じて国際交流をする機会10回以上 ・SDGsについてのポスター展示や、研究集録をとりまとめる。	評価指標による達成度 ① ・生徒 88.1% ・保護者 83.3% ・教員 100% ・国際交流の機会 19回 ・1・2年生全員 SDGs についての課題研究に取り組んでいる。その成果は、課題研究発表会や研究集録にまとめることになっている。	A A B	(評定) A	生徒と教員には国際交流が積極的に取り組まれていることが認知されているが、保護者による認知度はあまり高くない。交流の様子等をホームページ等で紹介するなど、広報の在り方を今後検討していきたい。オンラインでのコミュニケーションは、最初生徒にとっては戸惑いが大きかったもので、英語だけでなくオンラインでのコミュニケーションについても英語の授業等と連携させてスキルを身に付けさせていきたい。
	活動計画 ① ・テレビ会議を活用し、海外の生徒や帰国した留学生との交流を10回以上行う。 ・テレビ会議ではテーマを決めて活発な議論ができるように指導する。 ・できるだけ多くの生徒が参加できるように広報に努める。 ・SDGsを達成するための課題研究を行う。	活動計画の実施状況 ① インドネシア研修15回、姉妹校交流3回、留学予定者との交流1回をオンラインで実施した。インドネシア研修と留学予定者との交流は希望者28名、姉妹校交流は外語部の部員10名が参加した。	(所見) コロナ禍における新しい形の国際交流としてオンライン交流を積極的に行うことが出来た。費用や実施日程においてメリットが多く、多数の生徒の参加が可能になった。またインドネシア研修では一つのテーマで継続的に交流することができ、生徒の意識や行動の変化に繋がった。		
学校関係者の意見					
国際感覚を磨くことは、one worldの中では重要である。コロナ禍でオンラインによる海外交流が活発に行われたことは評価に値するが、直接海外に足を運べる日が一日も早く来ることを祈りたい。留学生の受け入れも、大変であったと思われるが、生徒にとっては意義深い経験になったはずである。					

11 開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①教育活動の積極的な公開を推進する。 ②ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する。 ③PTA、同窓会、地域社会との連携を図る。	評価指標 ① 公開授業を実施する。 ② ホームページが学校の情報を得たり、学校の活動を理解するのに役立つ割合（利用の保護者対象） 85%以上 ③-1 地域住民、PTA及び同窓会関係者を委員とする学校支援協議会の開催回数2回 ③-2 中学生及びその保護者を対象とした学校説明会の開催回数 2回	① 公開授業を3回実施。 ② 保護者 82.5% （昨年77.6%） ③-1 学校支援協議会の開催 2回 ③-2 学校説明会の開催 2回	A B B B	（評定） B	新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中ではあるが、本年度より全県一区の普通科高校になった本校の教育を理解してもらう上で、体験入学や公開授業を実施し、情報提供を図り、本校に対する理解を深めてもらう方策を考える必要がある。 ホームページについては、更新回数やタイミングをより適切に行い、より役に立つ内容となるよう改善に努める。保護者への情報提供については、学習支援サービスをより効率的に運用する必要がある。
	活動計画 ① ・休日の授業公開日を年2回実施する。 ・中学校、大学、学校評議員、保護者等への広報を充実させる。 ② ホームページを見やすく、使いやすいものになるよう改善に努めるとともに、内容の更新を年200回以上行う。 ③-1 学校支援協議会を年2回（6月、3月）開催する。 ③-2 学校説明会を休日に複数回実施し、中学生や保護者が参加しやすいようにする。また、中学校への案内や広報の方法を工夫し、参加者を増やす。	活動計画の実施状況 ① 11月の平日に本校保護者対象、休日に中学生対象に授業公開を実施した。また消費者教育や英語教育の推進に関する研究授業等を実施し、いずれもICTを活用した主体的・協働的な授業が展開された。 ② ホームページは、パノラマビューの導入や活用しやすいものに改善し、アクセス数の月平均は4万件から10万件に増えた。ホームページの更新回数は約200回であった。 ③ 中学生とその保護者対象の説明会を9月と10月に3回開催し、参加者は658名であった。	（所見） 授業公開については新型コロナウイルス感染症の感染対策を行い実施した。8月の中学生対象の体験入学および9月の城東祭は、新型コロナウイルス感染症感染拡大により中止となった。中学生及びその保護者対象の学校説明会は、3回で658名の参加があった。本年度より全県一区の募集となったことから遠隔の中学校からの参加が増えた。	学校関係者の意見 全県一区になり、生徒や保護者の興味・関心は高まっており、パノラマビューを取り入れたホームページは魅力的である。今後は、保護者に学校の状況がより詳細に伝わるような内容で、随時発信していただけるようお願いしたい。	

12 教職員の資質向上

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る。 ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。 ③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	評価指標 ① 教員の職務の満足度 90%以上 ② 常にコンプライアンス意識を持って勤務している割合 100% ③ 校外での授業力向上に向けた研修参加人数 5名以上	① 教職員 100% ② 教職員 100% ③ 「中央研修」「リーダーシップ養成研修」「チーム学校いじめ防止スキルアップ研修」「教育課程研究集会」等に参加。15名以上	A A B	（評定） A	コンプライアンスについてのアンケートでは、全員が「よく当てはまる」になるように個々の意識を更に向上させる必要がある。 オンライン研修が一般化してきており、校内での3密を避けた研修場所の確保、Web接続回線の安定等、より多くの教員が研修に参加できるよう引き続き環境整備に努める。
	活動計画 ① 校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を構築する。 ② 職員全体でのコンプライアンス研修会を3回以上実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。 ③ 県教委計画訪問等も含め、教員研修・研究	活動計画の実施状況 ① 学習系端末での教材データの共有や校内文書共有のための掲示板の活用を進めた。 ② 職員会議や職員朝礼の機会を捉えて25回実施し、コンプライアンス意識の向上を図った。 ③ 県教委計画訪問等も含め、各教	（所見） 教科の性質上、教材データ共有に対する適応差はあるが、学習課題の配信等教科に関わらない部分では連携を進める必要がある。 時宜を捉えたコンプライアンス研修を実施できたが、更に研修内容を自分事	学校関係者の意見 多忙な中、多くの先生方が研修に参加され、研鑽を積まれていることには感心する。研修内容を共有され、引き	

	<p>授業を計画的に配置し、各教科1回以上ICTを用いた研究授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外部機関等の授業力向上研修に参加する。 	<p>科でICTを活用した研究授業を年間1回以上行った。また、分散登校時等にはICTを活用した授業配信で学びの保証に努めた。コロナ禍によるオンライン研修が増え、外部の研修参加にも結びついている。</p>	<p>とするため意識の向上を図る必要がある。</p> <p>オンライン研修場所やWi-Fi環境等、より一層の環境整備に努める必要がある。</p>	<p>続き、多方面にわたる素晴らしい教育活動につなげていただきたい。</p>
--	--	---	--	--